トップニュース

## 支援センターからボランティア派遣

# 被災寺院の要望に応じた活動を展開

能登半島地震支援センター（金沢市・金沢別院内）は2月1日からボランティアの募集を開始、5日からは被災寺院などの要望に応じたボランティア活動を始めた。15日の作業に同行した。震災から2カ月近くとなるが、その現状は依然として厳しく、ボランティアに参加した僧侶らは「被災地、被災者に心を寄せた支援がまだまだ必要」と声をそろえている。

2月14日から16日までの3日間は、津波で本堂、庫裏が甚大な被害を受けた能登町白丸地区の高源寺で、延べ21人が活動した。建物内に流入した砂の除去、海水に浸かった畳や家具の運び出しなどの作業を行った。現地での宿泊場所の確保が困難なため、支援センターからの車両移動となる。交通事情が悪く同寺までは片道3時間以上を要し、作業時間は1日4、5時間と限られる。

15日には支援センターから車3台に8人が分乗して高源寺に到着。午前10時から作業を開始した。東京から帰省した同寺衆徒の鳴海昭純さん(66)の確認を取りながら、本堂や庫裏の海水に浸かった畳や家具などを境内に運び出し(写真)、種類別に仕分け。めくれ上がった床板などはできる限り元の位置に敷き戻して、衣体なども水に浸かったものと、そうでないものとに分別していった。

支援隊員としてボランティア活動に参加した僧侶は「あまりの惨状に最初は絶句したが、内陣が少しきれいになることで作業が続けられた」という。

東京都三鷹市の関本貴さん(67)は「行政のボランティアは満杯で申し込めなかった。その際に、支援センターのことを教えてもらった。門徒でない私でもいいのかと思いながら申し込むと、快く受け入れてもらえ、ありがたかった。お寺のことをよく知る僧侶の方たちが一緒だったので安心して活動できた」。

築地本願寺職員の福田みくさん(24)は「被災地のことはこれまで新聞やテレビのニュースでしか知らなかったが、実際に災害現場を目の当たりにし、いかに大変な状況にあるかがわかった。一人一人の力は微力でも、みんなが力を合わせて活動に取り組むことで、少しでも被災地の方々に寄り添うことができればと思う」と話す。

コーディネーターとして現場で作業を指示した工藤哲修さんと篠原法樹さんは「作業時間が限られるので、一人でも多くの人に参加してもらえるとありがたい。さらに、参加したボランティアの人たちが地元に戻って周囲の人たちに活動のことを伝えることも大切だと思う。被災地の方々が最も恐れるのは、自分たちのことが忘れられていくこと。被災地の人たちに心を寄せて、活動を継続していきたい」と話している。

ボランティアの問い合わせは支援センター☎0900（2565）53325または090（2163）53225。

能登半島地震支援センターホームページ

## スリランカ大使夫妻がカレー届ける

スリランカ大使館のロドニー・ペレーラ駐日大使と夫人の雅子さんは2月11日、在日スリランカ人の料理人などとともに石川県七尾市の避難所3カ所でスリランカカレーの炊き出しを行った後、同市の浄尊寺(勝尾考住職)を訪ね、避難生活を送る同寺門徒などにカレー弁当を配った。

大使夫妻は、群馬県桐生市の本派・重恩寺の出身で僧籍を持つ雅子さんを縁に、築地本願寺と交流を深めてきた。今回は、被災地での炊き出しを行うにあたり、被災した本派寺院や門徒たちを見舞いたいと、築地本願寺を通して能登半島地震支援センター（金沢市・金沢別院内）に申し入れていた。

浄尊寺では、ペレーラ大使と布袍・輪袈裟を着けた雅子さんらが、集まった門徒たちに声をかけながらカレー弁当を手渡していった。予想を上回る人が集まり、用意した50食では足りず、手渡せなかった人たちには翌日に届けられた。

七尾市の浄尊寺を訪ね、カレー弁当を手渡すスリランカ大使館のペレーラ大使（右）と雅子夫人（中央）＝北國新聞社提供

勝尾住職は「門徒さんには自宅で生活している方も多く、避難所で炊き出しがあっても食べ物が届かない場合が多い。『被災者に寄り添いたい』というペレーラ大使や雅子さんらの心の込もったスリランカカレーを手にした皆さんは、とても喜ばれていた」と話す。

大使夫妻は13日には支援センターを訪問し、現地緊急災害対策本部長の中村祐順・石川教区教務所長らから寺院の被災状況や支援活動の様子などを聞いた。

ペレーラ大使は「伝統ある浄土真宗の寺院が数多く被災したことに心が痛む。そうした寺院や門徒の人たちをしっかり支援されていることもよくわかった。仏教の慈悲、寄り添いの精神が今こそ求められている。被災した人たちの生活を守るために、私たちもできるかぎりの支援をしていきたい」と語った。

## 「仏教の精神を今こそ」

### 大使夫人の雅子さんが本願寺派僧侶

宗門校・龍谷大学（入澤崇学長、京都市伏見区）の吹奏楽部は2月12日、「吹奏楽フェスタin石川～令和6年能登半島地震復興支援チャリティーコンサート～」を、金沢市・金沢歌劇座で開催した。宗門校の金沢龍谷中・高校と石川県内の高校3校の吹奏楽部も共演し、被災地の1日も早い復興への願いを込めた演奏を、1500人を超える観衆に届けた。

元々は、各地で開催する東日本大震災・熊本地震復興支援チャリティーコンサートの一環だったが、地震が発生したことで大学が開催の有無を協議。「能登半島地震の被災地に思いを」と変更して開催することになった。同大学吹奏楽部幹事長の小林明かりさん(21)は「皆さんが大変な中、『私たちが演奏をしていいのか』と葛藤があったが、やると決まってからは全力を傾けてきた。私たちにできることは音楽で被災地の方を元気づけること。少しでも皆さんの力になれたら」と気持ちを切り替えた。

全国大会で金賞に何度も輝くなど、大学屈指の実力を誇る。石川国体メインマーチ「マーチ・ゴールデン・イーグル」など15曲を披露(写真右)。アンコールでは、学生と生徒270人で2曲を演奏し、来場者を楽しませた。小林さんは「被害が大きな輪島市から来てくださったお客さんもいて、皆さんからの拍手やアンコールの声を聞き、やってよかったと思った。私たちの気持ちも伝わった気がする」と語った。

共演した金沢龍谷高校吹奏楽部部長の伊藤遙さん(2年)は「輪島市の実家に戻っていた部員は、10日ほど避難所で過ごした。日々の生活、そして演奏を聞いていただけるこうした機会も、決して当たり前ではないということを実感した。生かされていることへの感謝と、被災した方への寄り添いになればという思いで演奏した」と話した。

終了後には同大吹奏楽部員が、会場ロビーで来場者に募金を呼びかけた(写真左)。集まった51万6095円はすべて、能登半島地震の義援金として日本赤十字社に寄付される。

### 龍谷大学吹奏楽部
## 金沢でチャリティーコンサート

## 私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

## 赤光白光

「春を待つ」という語は、日本では古く万葉の時代から愛されてきたといわれる。西行法師は「おいかはる春の若草待ちわびて原の枯野に雉子鳴くなり」と、若草が生え替わる春の訪れを待ちわびて鳥が鳴いていると歌う。待ちわびる、待ちどおしく思うこころが読み取れるとともに、自然との一体感がひびきとして伝わってくる。

▼最近は、天気予報が詳しく春の到来を予想してくれる。そのせいか、春の到来を待ちわびることも少なくなった。科学技術の進歩により、即刻結果がでることで待たなくてよくなったとも言えよう。

▼待ち合わせも変わった。時間に遅れても携帯電話ですぐに相手に知らせることができるからだ。昔はそうはいかず不便だった。しかし、遅れた私を信じ待ってくれた相手の行動に感謝し、信頼の絆が強くなったことを覚えている。「待」は、待つというだけでなく、「頼りにする」という意味がある。「期待」という熟字がそれを示している。何かに頼らずに我々は生きていけない。自分一人の力で生きていると思いがちだが決してそうではない。周囲に支えられ、大きな力に身をゆだねて生きていると言ってもいいだろう。こう見ていくと「待」の字には、限りなく相手を思うこころ、そして優しささえ感じられる。

▼親鸞聖人は「浄土にてかならずかならずまちまゐらせ候ふべし」と述べられている。単に出会いを待つのではなく、聖人の弟子に対する温かな思いが込められているのである。

本願寺新報
hongwanji journal
3月1日（金曜日）
毎月1日・10日・20日発行
発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753
福岡支局 〒812－0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171
宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

創業1400有余年の寺社建築技術
剛 金剛組
https://www.kongogumi.co.jp/
フリーダイヤル 0120-054-731

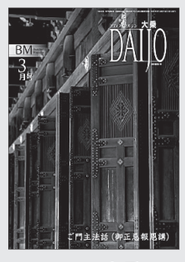
最新刊 2024年、立教開宗八百年を迎えて
立教開宗と浄土真宗
四夷法頭（龍谷大学・相愛大学講師）
親鸞聖人が『教行信証』を撰述されてから八百年。真宗における立教開宗の意義と、「浄土真宗」という宗名に込められた意味をうかがう。お施本にも最適。
B6判・中綴・32頁 220円
＊50部以上1割引／100部以上2割引

最新刊 帰京後の親鸞―明日にともしびを―⑨
八十二歳の親鸞
今井雅晴（筑波大学名誉教授）
―善鸞異義事件―
息子・善鸞の異義に聖人はどう向き合ったのか。書状5通を読み解き、その実相に迫る。
B6判・並製・104頁 1100円
聖人の晩年30年を考察するシリーズ《全15冊》予約受付中

＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社
ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp
【大田利生先生 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-3-7 電話：077-507-8209 FAX：077-507-9926

原本から製品まで、寺院仏閣のトータルプランナー
株式会社 あいぞの
株式会社 あいぞの寺社ラボ
大谷本廟様 新無量寿堂読経所御内陣納入
鹿児島別院様 慈光堂オリジナル納骨壇納入
■オリジナル納骨壇企画製作　■本堂現場漆塗・彩色工事
■本堂・納骨堂内部仏具設計施工　■寺院建築企画設計
■仏像・彫刻製作及び修復　■寺院建築修復・施工
■寺院用具一式　■寺院法規・資金計画相談
〒814-0004 福岡市早良区曙２丁目７番13号
フリーダイヤル 0120-168-940
HP:http://www.aizono.co.jp/

本願寺御香調進所
ほのかな香りを創って400余年
伽羅・沈香・線香 匂い袋・虫よけ香
香老舗 薫玉堂
〒600-8349
京都市下京区堀川通西本願寺前
TEL（075）371-0162
FAX（075）343-1459
創業文禄三年（1594年）



プディストマガジン 大乗 DAIJO 3月号
発売中！
毎月1日発行
B5判／80ページ
年間購読料 4,500円（税・送料込）
1冊 375円（税・送料込）
好評連載
●華遇記 …藤井 真
●DAIJO法話 …米田 順昭
●ご機言！お寺の掲示板 …江田 智昭
●結婚してお坊さんになりました …前田 純代
●和のこころ 親鸞聖人のご和讃 …玉木 興慈
●親鸞聖人いまさずは …清藤 隆春
●DAIJOコラム フォーカス仏教ライフ
●仏教壮年の声 ―その他コーナー多数！
本願寺出版社
0120-464-583
FAX 075-341-7753
〒600-8501
京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺)
https://hongwanji-shuppan.com/